

## 大田区自立支援協議会とは…

「大田区自立支援協議会」は、障がい児・者の地域での自立した生活を支援するため、障がいのある方や障がい福祉に係わる様々な分野の関係者が参加して定期的な協議を行い、地域での課題について情報を共有し、連携を取りながら、具体的な検討を行うことを目的として、区が設置しています。

## 「大田区自立支援協議会 10年目に寄せて」

自立支援協議会は平成20年度に発足し、今年度10年目を迎えました。10年目に寄せて会長からのメッセージを掲載いたします。



大田区自立支援協議会会長

(西武文理大学サービス経営学部健康福祉マネジメント学科 准教授)

白井 絵里子

スポーツの秋ということで、自立支援協議会をサッカーに例えてみようと思います。大田区というフィールドでは、プレイヤー（障がいをお持ちの方）がプレーする（安心して暮らし続ける）ことができるように、日々多くのサポーター（家族、サービス事業者、支援機関等）が一定のポジションからプレイヤーを見守っています。試合時間が制限されておらずライフステージを通じて試合が続ける、対戦相手は社会的障壁であることが実際のサッカーの試合と異なります。

各プレイヤーがその人らしくプレーするためには、あらゆる場所でプレイヤーの想いに寄り添いプレーを支えてくれるサポーターが不可欠です。対戦相手は有形無形の強敵であるためサポーターをサポートする存在が必要です。その役割を担うのが自立支援協議会ではないでしょうか。サポーターがプレイヤーを支援するために必要な情報を入手し適切にサービスが利用できるよう調整を行う、サポーターが不足している分野や地域においてサポーターの開拓や養成を行う、サポーターが持っている力を十分に発揮できているか注意を払う、サポーターをはじめ広く区民がプレイヤーの権利擁護について考え実践できる機会をつくる、サポーターが自らを高めていけるような働きかけをする、といったサポーターへの支援やフェアプレーを実現するための環境への働きかけを自立支援協議会が行うこと（自立支援協議会の機能とされる情報機能、調整機能、開発機能、評価機能、権利擁護機能、教育機能にあたります）がプレイヤーへのきめ細かなサポートにつながると考えています。

人口減少が進む日本。これから先、どのような社会が私たちを待っているのでしょうか。自立支援協議会では今やるべきことに着実に取り組みつつ、長期的な展望のもとで貢献できることを皆様と考え実行に移していきたいと思っています。

自立支援協議会が、さらにこの先10年後のフィールドでたくましく活躍できる頼もしい「成人」へと成長していけるよう多くの方々からお力添えをいただけますことを願っております。





## 専門部会とは・・・

自立支援協議会では

- ①相談支援部会 ②防災部会 ③就労支援部会 ④こども部会  
⑤地域移行・地域生活支援部会の5つの部会が設置されています。

部会で担当する課題、検討経過、研修会やイベントなどの取り組みのご紹介と各部会で目指している方向性など、紙面で順番に詳しくお伝えしていきます。  
今号では、地域移行・地域生活支援部会と防災部会の2つの部会をご紹介します!!

## 地域移行・地域生活支援部会

### 「地域移行・地域生活支援部会の進捗と今後に向けて」

地域資源評価開発部会から3年前に改編された地域移行部会は、精神科病院や入所施設における生活を余儀なくされている障害者が、地域で暮らすための住居確保などの相談や障害福祉サービスの利用支援を行う「地域移行支援」の円滑な推進とその課題検討を行うことを目的に議論を深めてきました。そして、当初より第5期障害福祉計画への改定を見据えて、部会としての課題抽出とその提案を3年後に実施することを目指してきました。

そして、障がい者が地域で安心して自分らしく暮らせるための「戻る仕組み・支える仕組み」をキーワードに障がい種別ごとの事例検討を深めてきました。1年間の議論過程を踏まえて、翌年には部会名を地域移行・地域生活支援部会と改編をして、地域生活を継続的に営むための支える仕組みをより議論してきました。

今年度は、節目となる3年目を迎えることになりましたが、現段階において、統一した見解を部会として対外的にお示しするまでには残念ながら至っていません。2年間の振り返りをする中で、各検討における目的や抽出された課題をしっかりと確認して、形に残すことの意義を改めて確認したところです。今までの議論経過も活用し、さらなる事例検討を行うことにしました。

直近では、入所施設からスムーズに地域移行した大田区内の事例を基にして、グループワークによる討議を行いました。事例検討のより良いあり方の検討を行いつつ、円滑に支援が進んだ事例を通じて、地域資源の情報共有・情報発信のあり方や地域生活体験の不足の解消などを検討課題として確認しました。後期も別の障害で2事例の検討をしていきます。また、学習会（11月開催を予定）も公開で実施する予定です。詳細は、後日お知らせします。是非ご参加ください。



## 防災部会

### 【防災部会公開学習会を開催！】

9月26日（水）大田区消費者生活センターにて  
防災部会による公開学習会を開催しました。



テーマは『地域での災害に備えて ～障がい者の自助・共助を学ぶ～』

講師：鍵屋 一（かぎや はじめ）先生

跡見学園女子大観光コミュニティ学部、（一社）福祉防災コミュニティ協会・代表理事

#### 【講演要旨】

障がい者が大災害時に生き残るために、心得ること、準備すべきこと、必要な体制作りについて、現在の危機的な理由と併せてお話いただきました。

過去の災害（震災や火山噴火）の周期から発生予測をすると、今後30年間に大災害が起こる確率は「1人が交通事故で怪我をする確率」や「ジャンボ宝くじを毎回購入して高額当選する確率」よりも遥かに高いこと。「自分は大丈夫」という根拠のない漫然とした思い込み（偏見）を持たず、その明らかな危機への対策を立てるのは必然である、という警鐘を鳴らしていました。

先の震災で被災障がい者への調査で、災害直後に命を助けてくれたのは、1位「家族」、2位「近所・友人」、3位「福祉関係者」という結果となり、命を守るための鍵は『ご近所力』。

また、災害直後に命が助かって、障がい者・高齢者などの災害時要配慮者が被災した場合、住環境や支援体制の大幅な（悪い方への）環境変化に対応できず、体調悪化につながりやすく、障がいの急激な重度化や災害関連死につながる怖れがあります。そのために大災害発生より前に、ひとりひとりの災害時個別支援計画、そして、地域では福祉防災計画を立て、訓練や施設・NPOなどとの連携体制を作る必要があります。

また、支援体制を整える訓練は、参加者が楽しみながら魅力ある内容であれば、より効果的です。これによりご近所や関係者とも良い人間関係を築かれ、命を守ることに繋がるというお話しでした。



### 【朗報！ヘルプカードが『障がい者福祉のあらし』の中に！】

防災部会からの提案により『2017年度 障がい者福祉のあらし』の最終ページに「ヘルプカード（たすけてねカード）」が掲載されました。ヘルプカードは障がいのある方が、あらかじめこのカードに必要な支援の内容などを記入し、携帯して、災害時や外出先での緊急に困ったときに、適切な手助けを得るために活用できます。

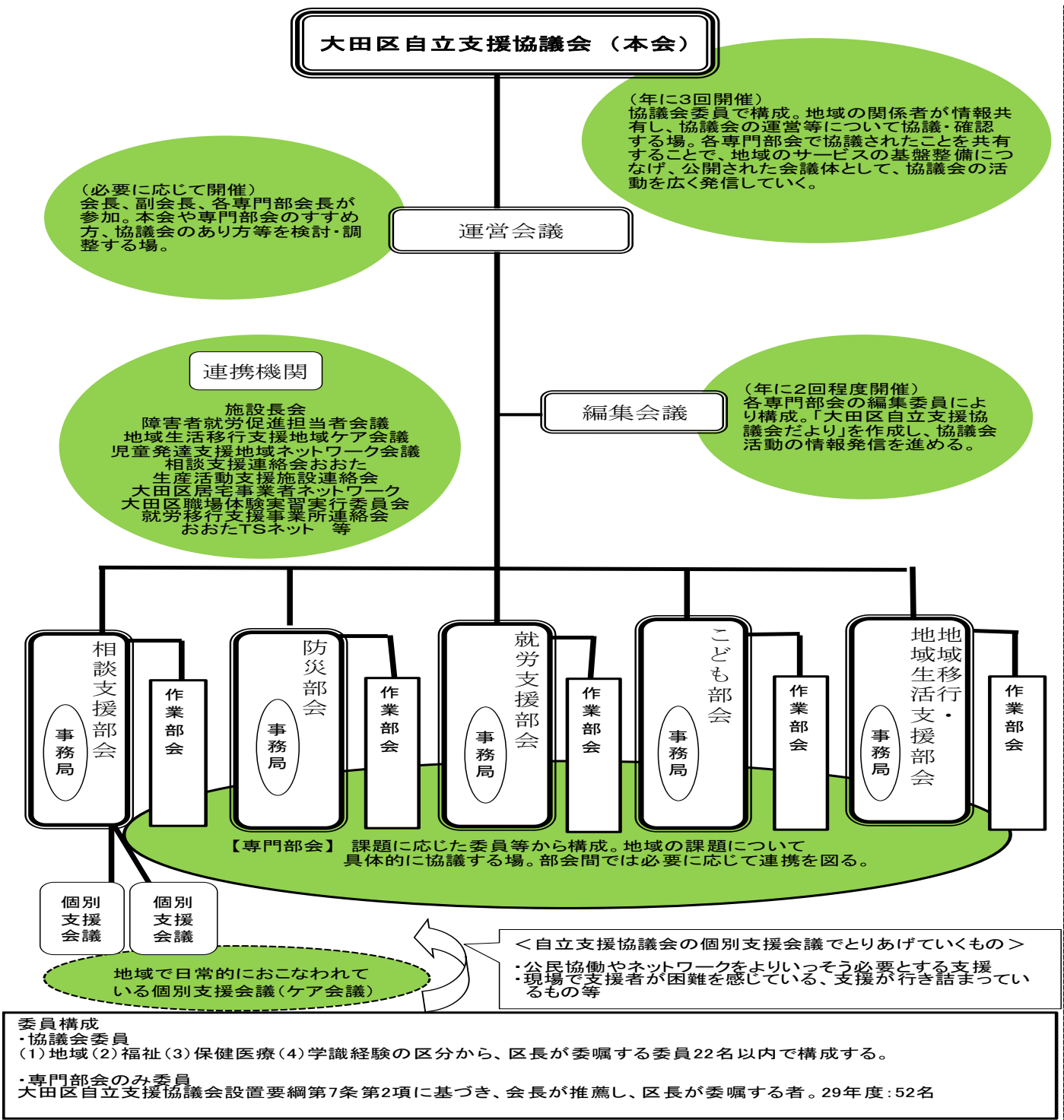


また、ホルダー付きヘルプカードを入手したい場合、区役所障害福祉課、または、各地域庁舎の地域福祉課・地域健康課、障がい者総合サポートセンターで、そして大田区総合防災訓練会場の防災部会ブースでも、障がい者手帳の有無は問わず、ご高齢の方など必要な方にはどなたにでも配布しています。



※大田区のホームページからもダウンロードできます。ご利用下さい。

# 平成 29 年度 大田区自立支援協議会構成図



## 平成 29 年度大田区自立支援協議会 第 2 回本会開催のお知らせ

日時：平成 29 年 10 月 27 日（金） 13 時 30 分～15 時 45 分  
 場所：障がい者総合サポートセンター5階多目的室 ※どなたでも傍聴可能です。  
 ★各専門部会の中間報告や、大田区の障がい福祉施策に関する報告等が聴ける大変貴重な場です。是非、ご興味をお持ちいただき、今後とも注目して頂きますよう宜しくお願いします。